

令和 5 年度各路線におけるコミュニティバスの利用実績報告について

1. はじめに

- ・令和 2 年度から令和 4 年度については、新型コロナウイルスの感染拡大の影響によりコミュニティバスの利用者数が減少していることから、従前通りコミュニティバスの利用実績評価を行うことは適切でないと判断し、評価は実施せず、参考結果として各路線におけるコミュニティバスの利用実績を整理した。
- ・令和 5 年度については、令和 5 年 5 月 8 日より新型コロナウイルス感染症の分類が 2 類から 5 類に移行され、コミュニティバスの利用者数がコロナ禍前(令和元年度)の約 86%まで回復していることから、コミュニティバスの利用実績評価を実施することとする。
- ・ただし、鹿ノ台線については、令和 6 年 1 月から本格運行を開始しており、3 ケ月間の実績しかないため、評価を実施しないこととし、参考結果として整理する。

2. 利用実績評価

2.1. 評価方法

- ・令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月の 1 年間ににおける運行費用(初期費用除く)と収入合計(運賃収入、地元負担金、広告収入、サポーター制度の協賛金、国庫補助金)の差額から、運行費用に対する生駒市の負担割合を算出する。
- ・北新町線と光陽台線の病院線区間（生駒駅～生駒市役所～生駒市立病院の区間）は、評価に含まないものとする（生駒市立病院の開院に伴い、病院へのアクセスのために延伸されたものであり、利用者や沿線地区が収支に関して責任を負うものではないと考えられるため）。
- ・北新町線は、一部ダイヤで門前線区間を運行しており、当該区間については門前線に含めて評価を行う。

従来の評価方法からの変更点

- ・回数券について、購入ベースではなく利用ベースで評価を行う。
- ・コミバス「たけまる号」サポーター制度の協賛金を、各路線の収入合計に追加する。

2.2. 評価結果

- ・ 令和 5 年度の各路線の評価結果は以下の通りである。萩の台線を除く 5 路線における生駒市負担割合は、評価基準である上限 70%を満たしている。
- ・ 令和 5 年度及び令和 4 年度の各路線の詳細な評価結果は、次頁に掲載している。

門前線	・ 生駒市の負担割合は <u>31.9%</u>であり、評価基準（上限 70%）を満たしている。また、1 年間で 29,936 人の移動を支えている。6 路線の中で市の負担割合が最も低く、利用者数が最も多いことから、収支や移動支援の観点から特に優秀な路線である。 ・ 前年度と比較すると利用者数が増加し、運行費用が減少したことで、負担割合が 2.0%下がっている。
西畑・有里線	・ 生駒市の負担割合は <u>60.6%</u>であり、評価基準（上限 70%）を満たしている。また、1 年間で 4,528 人の移動を支えている。 ・ 前年度と比較すると利用者数が減少したことで、負担割合が 0.5%上がっている。
北新町線	・ 生駒市の負担割合は <u>60.4%</u>であり、評価基準（上限 70%）を満たしている。また、1 年間で 5,875 人の移動を支えている。 ・ 前年度と比較すると利用者数が減少したことで、負担割合が 1.7%上がっている。
萩の台線	・ 生駒市の負担割合は <u>82.0%</u>であり、評価基準（上限 70%）を満たしていない。そのため、令和 6 年 4 月 1 日より週 5 日から週 3 日運行に減便を行っている。
光陽台線	・ 生駒市の負担割合は <u>40.6%</u>であり、評価基準（上限 70%）を満たしている。また、1 年間で 27,564 人の移動を支えている。他の路線と比べて市の負担割合が低く、利用者数が多いことから、収支や移動支援の観点から優秀な路線である。 ・ 前年度と比較すると利用者数が減少したことで、負担割合が 2.5%上がっている。
鹿ノ台線 (参考)	・ 生駒市の負担割合は <u>58.4%</u>であり、評価基準（上限 70%）を満たしている。また、本格運行開始以降（3 ヶ月間）で 1,582 人の移動を支えている。

表 1 令和 5 年度の評価結果

項目	単位	門前線	西畑・有里線	北新町線 ※1	萩の台線	光陽台線 ※2	鹿ノ台線 ※3
運行日数	日	242	242	242	242	242	33
利用者数	人/年	29,936	4,528	5,875	6,567	27,564	1,582
①運行費用	円/年	8,311,578	6,942,080	2,884,150	7,202,650	8,665,916	846,470
②運賃収入	A.現金	円/年	1,664,774	386,755	338,670	245,200	3,468,473
	B.回数券(利用金額)	円/年	3,965,800	616,290	770,743	1,020,050	1,604,948
	合計	円/年	5,630,574	1,003,045	1,109,413	1,265,250	5,073,421
③広告収入	円/年	26,400	26,400	26,400	26,400	72,160	0
④サポーター制度協賛金	円/年	5,000	5,000	6,000	5,000	5,000	5,000
⑤国庫補助金	円/年	0	1,700,000	0	0	0	0
⑥収入合計 ※4	円/年	5,661,974	2,734,445	1,141,813	1,296,650	5,150,581	270,227
⑦生駒市の負担額 ※5	円/年	2,649,604	4,207,635	1,742,337	5,906,000	3,515,335	493,975
⑧地元の負担額 ※6	円/年	-	-	-	-	-	82,268
生駒市の負担割合 ※7	%	31.9%	60.6%	60.4%	82.0%	40.6%	58.4%

表 2 【参考】令和 4 年度の評価結果

項目	単位	門前線	西畑・有里線	北新町線 ※1	萩の台線	光陽台線 ※2
運行日数	日	243	243	243	243	243
利用者数	人/年	29,143	4,784	6,237	6,211	28,680
①運行費用	円/年	8,412,394	6,950,590	2,920,966	7,031,680	8,736,800
②運賃収入	A.現金	円/年	1,673,439	408,820	367,721	162,900
	B.回数券(利用金額)	円/年	3,854,750	635,450	807,005	1,023,150
	合計	円/年	5,528,189	1,044,270	1,174,726	1,186,050
③広告収入	円/年	26,400	26,400	26,400	26,400	106,260
④サポーター制度協賛金	円/年	5,000	5,500	5,000	5,500	5,000
⑤国庫補助金	円/年	0	1,698,000	0	0	0
⑥収入合計 ※4	円/年	5,559,589	2,774,170	1,206,126	1,217,950	5,407,109
⑦生駒市の負担額 ※5	円/年	2,852,805	4,176,420	1,714,840	5,813,730	3,329,692
⑧地元の負担額 ※6	円/年	-	-	-	-	-
生駒市の負担割合 ※7	%	33.9%	60.1%	58.7%	82.7%	38.1%

※1 病院線区間と門前線区間を除いた評価結果

※2 病院線区間の利用者を除いた評価結果

※3 本格運行開始した R6 年 1 月～3 月の結果をまとめた参考結果

※4 ⑥収入合計＝②運賃収入＋③広告収入＋④サポーター制度の協賛金＋⑤国庫補助金

※5 ⑦生駒市の負担額＝①運行費用－⑥収入合計－⑧地元の負担額

※6 ⑧地元の負担額＝コミバス運賃との差額＋奈良交通重複区間の経費

※7 生駒市の負担割合＝⑦生駒市の負担額÷①運行費用×100

3. 既存路線の利用促進策の検討(たけまる号の運行形態の見直し・改善)

- ・生駒市内を運行しているコミュニティバスの利用促進に向けて、運行内容の見直し等の検討を沿線地域の皆様と共に行う。
 - ①利用が少ない路線に対し、沿線地域に入ってダイヤ見直し等を実施する。
 - ②その他路線についても、必要に応じて運行内容の見直し等を実施する。

4. 人件費や燃料費高騰等の外的要因の変動に合わせた評価基準の見直しに向けた検討

- ・人件費や燃料費等の高騰に伴う運行費用の増大などの公共交通を取り巻く外的要因の変動に合わせて、今後、評価基準の見直しに向けた検討を実施する。